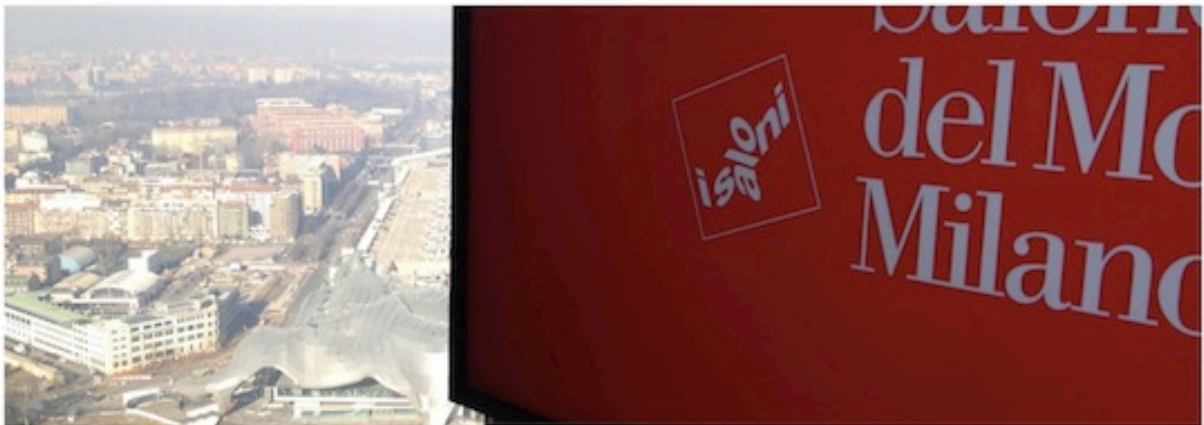




Salone del Mobile.Milano 2015 記者発表会

ルーチェとオフィスのある今年度の Salone del Mobile.Milano では、ルーチェの併催イベント、「Favilla」が市内のサン・フェデーレ広場にて、Workplace.3.0/サローネウフィーチョの併催イベント、ミケーレ・デ・ルッキの「The Walk」は見本市会場内で、そして、見本市開催と同時に発表される新しいアプリ「IN ITALY」では、イタリア企業 64 社が結集、各々の商品が誕生するまでの秘話が明かされます。



* FLA Eventi 社 (Salone del Mobile.Milano 運営会社) ロベルト・ズナイデロ社長



第 54 回 Salone del Mobile.Milano (ミラノサローネ国際家具見本市) は 4 月 14 日(火)から 19 日(日)までの 6 日間、ミラノ・ローフィエラにて開催されます。平日は**業界関係者のみ**を対象とし、**土日は一般開放**します。またサローネサテリテは会期中通して一般開放、入場無料です。以下、見本市に関するデータです。

(注:2015 年 2 月現在)

< 全見本市共通 >

時間:9:30-18:30

全見本市出展社数:2,010 社 + サローネサテリテ参加デザイナー数 700 人

全見本市出展面積:201,200 m²

全見本市会場面積:340,000 m²

< 各見本市 >

第 54 回 サローネ国際家具見本市 (国内 54 回目、国際 37 回目)

第 29 回 サローネ国際インテリア小物見本市

出展品:

- 寝室用家具(ベッド、ワードローブ)
- リビング・ダイニング用家具(ソファ、テーブル・椅子、収納)
- 玄関用家具、子供用家具、ガーデン用家具、小物家具
- い草・藤家具
- 装飾素材
- 同業種の新聞、雑誌、広告会社関連サービス

出展社数:1,450

出展パビリオン:1-8, 10,12,14,16,18,20

出展面積:152,200 m²

プレスギャラリー:Corso Italia/ レセプション パビリオン 5,7,9,11

開催年:毎年



第 28 回 エウロルーチェ: サローネ国際照明見本市 (隔年開催)

出展品:

- 屋内照明、野外照明
- 工業用照明
- ショー/イベント用照明
- 医療現場用照明
- 照明システム、光源
- 照明技術のソフトウェア/コンサルティング会社
- 同業種の新聞、雑誌、広告会社

出展社数: 450 社

出展パビリオン: 9,11,13,15

出展面積: 37,500 m²

プレスギャラリー: パビリオン内

開催年: 隔年

第 17 回 Workplace3.0/サローネウフィーチョ (隔年開催)

出展品:

- 各種オフィス対応家具(銀行、保険、郵便、広報)
- オフィスセキュリティ
- 冷暖房空調機器
- オフィス小物、照明
- オフィス関連組合、同業種の新聞、雑誌、広告会社関連サービス

出展社数: 110 社

出展パビリオン: 22,24

出展面積: 11,500 m²

プレスギャラリー: パビリオン内

開催年: 隔年

第 18 回サローネサテリテ

参加デザイナー: 700 人

参加国際デザイン学校: 18 校 + ADI

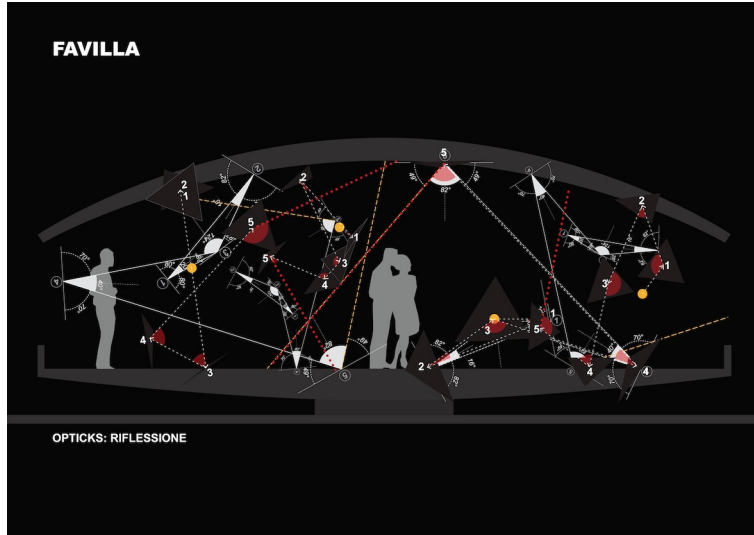
出展パビリオン: 22,24

出展面積: 2,865 m²

開催年: 毎年

<3 大インスタレーション>

● FAVILLA ファヴィッラ
エウロルーチェ併催イベント



「ファヴィッラ」とは「閃光」の意。Salone del Mobile.Milano 期間中、ミラノ市内の市庁舎裏にあるサン・フェデーレ広場に巨大ブラック・ボックスが設置され、光と音のインスタレーション「ファヴィッラ」が開催されます。

2015 年は、ユネスコが定める「光と光技術の国際年(国際光年)」であり、エウロルーチェの年でもあります。それに肖った特別イベント「ファヴィッラ」。「一つの光、一つの声」という副題のプロジェクトを手がけたのはアッティリオ・ストッチ。過去にもミラノサローネ併催イベント「クオーレ・ボスコ(2011)」、「リープロ・チエロ(2012)」を手がけた建築家です。

光とは単に明かりを灯すもの、という概念から離れ、光そのものが持つ神秘に迫る。光がどのような道をたどって私たちに届くのか、光の本質的性質、物質的性質とは何か。「ブラック・ボックス」と名付けられた巨大な没入型の光の空間でその答えを読み解きます。「ファヴィッラ」はブラック・ボックス内に潜み、クリスタルのような強い光を放ちます。それはまるでジオード(晶洞)のように、感動を生む世界の発掘へと導きます。光のプレゼンテーションは「一つの光」と「一つの音」が対になって構成され、まるで光が「人」のように見え、音が「声」のように聞こえます。

「ファヴィッラ」の構成は、古代ギリシャ悲劇をモデルとしています。「神は云った。『光あれ。』すると光が出来た。」のプロローグから始まり、4つのエピソード - 4つの合唱 - エピローグという構成。メインである「4つのエピソード」は、1704年出版のニュートンの主著のひとつ、「光学」に記されている光の粒子論、「粒子と波動の二重性」に基づき、4つの光:「直線」「回折」「反射」「屈折」による光の伝播を可視化します。更には「合唱/間奏曲」として、自然光が織りなす神秘、「太陽光」、「クロロフィルによる光合成」「虹」等のインスタレーションで光のショーが繰り広げられます。

● The Walk

Workplace3.0/サローネウフィーチヨ併催イベント



ワークスペースへの新提案をテーマにした巨大インスタレーションを手がけるのはミケーレ・デ・ルッキ。パビリオン 22, 24 号館の Workplace3.0 にて、4 月 14 日から 19 日まで開催されます。

「ワークスペースとは、スポーツジムに例えて言うなら、『脳を鍛える場』であり、人と人との関係が新しいアイデアと可能性が産む。」と、ミケーレ・デ・ルッキはコメントします。「未来型オフィスは、形式にとらわれないライフスタイルがビジュアル化されるべきで、常に新しいアイデアが溢れ出る空間であるべき。」

めまぐるしく変化する時代においてオフィス環境は、社会、経済、文化の変化に敏感に対応が求められています。「The Walk」は、「立ち止まることのない」という社会現象のメタファーです。「歩くアートとは、世の中を違う角度から見ることのできるビジュアル・アート」と、イタリア人作家、**Wu Ming2** の言葉にあるように、歩き続けることの大切さがこのプロジェクトの裏に秘められたテーマです。

オフィスの中においても、じっと留まらず動き続けることで、オフィスの中の風景と外の景色が、オフィスをより刺激的な空間にする大切な要素となります。ところが現実には、**受付やキッチン、観葉**



植物で飾られたコーナーなど、仕事場と離れたスペースがより重視され、**会議室や通路**が、仕事場そのものより、ずっと快適な場となっています。今回の展示では、**4つのテーマ**に分かれた展示 -「**クラブ**」「**フリー・マン**」「**アゴラ**」「**ラボラトリー**」- を通してワークスペースの新たな提案をします。

クラブ

コミュニケーション・プラットフォームとなる場。人と人が出会うこのクラブは、あえてインフォーマルでありながら、まるでホテルや空港のロビーのように居心地の良い空間。このスペースには、デスクもなければ、そこに留まる義務もない、新しい概念の**フリーなオープン・オフィス**。クラブ内では全てがより**良い仕事ができるよう工夫**されており、コーヒーや軽食が昼夜通してできる環境となっています。

フリー・マン

ワークスペースは、**クリエイティブでプロダクティブな意見交換の場**。同時に、「自分」と「他人との関わり」のバランスが大切になります。独り集中して考える必要もあれば、他人と意見交換する必要もある。オフィス環境は人との交わりがとても重要であり、**刺激的で、エキサイティングで、クリエイティブ**であることが理想。個人の創造性を養いながら、**グループワーク**のポテンシャルを高める。同時に**適度な距離**が置ける安全な場で、誰にも邪魔されず商談できる場を理想とします。

アゴラ

アゴラのパビリオンでは、様々なタイプのビジネス・スペースが選択可能です。**カンファレンス、プレゼンテーション、映写、展示、ショー、催事**など用途に合わせて選べるスペースは、**コミュニティ意識**を高めます。

ラボラトリー

その名の通り、ここは作業場。**書類やプレゼン資料**のほか、**3Dプロトタイプ、画像や映像、ソフトウェア、アプリケーション**等もここで作成します。ここでは手作業を学んだり、新しいツールを試用したり、創作作業、アップデートなどしながら、**コミュニティ**を生み、信頼関係を築くことに役立たせます。

「The Walk」のワークスペースは**緑豊かなガーデン**に囲まれ、より良い仕事ができる環境を提案。花の香りを楽しみながら季節の移り変わりを肌で感じ、自然の美しさを再認識します。

ハイブリダイゼーション(異種混合)を起こして生まれる雑草のように、特定の規則や知識に縛られない「**野性的な場所**」で育つ「**クリエイティブのつぼみ**」ほど、豊で活気に満ちた花を咲かせる。故意に「**放置**」したオフィス環境は、より**肥沃な種の発芽**に最も適している場といえる。

痩せた土地では、人は健康を害し、その能力を充分発揮することができない。だからこそ、**アート**がワークスペースに必要不可欠であり、人々の**感覚と想像力**を研ぎすませ、インフォーマルな仕事環境を創り出すことで、一日の**ストレス**が軽減され、より良い人間関係を築くことができるでしょう。



● IN ITALY

卓越したイタリアン・ライフスタイルを物語る新アプリ/生産過程の秘話を公開



「私たち(イタリア人)はピッコロ・レオナルド。その素晴らしい DNA を受け継いで唯一無二のマスターピースを世に送り出してきた。」と記者会見で述べたのは、アッサレード (FLA Eventi 社家具部門) 副部長 ヴィットリオ・リヴィ氏。2015 年 Salone del Mobile.Milano の開催時に公開される新しいアプリを通して、今まで語れることのなかった生産過程での秘話が明らかになります。

IN ITALY とは？

IN ITALY で紹介されるのは、5 つの異なる「イタリアン・ライフスタイル」。120 を超えるビデオを通して企業の歴史、変遷、物作りに託された職人技がどう伝承されてきたか、を公開。芸術を象徴するイタリアの美しい自然の風景の中でカメラが回ります。レッチェ、ミラノ、ローマ、ヴェネツィア、ヴァル・ドルチャ(オルチャ渓谷)。舞台となるこれらの街は何世紀にも渡る歴史と共に、その美しさを積み重ねて来たシンボリックな街。そして、その美しさがこの世に二つとないデザインや家具を生み出してきました。

イタリアに魅了され集まって来た 5 人のデザイナーの手により、アプリへのマルチメディア・インタラクションが実現。アプリの操作画面からビデオ再生などを通して、其々の企業プロフィールから、物作りの裏に隠された秘話を知ることができます。

「フォー・イン・ザ・モーニング」と名付けられたプロジェクトを監修したのは、ダリオ・クラートロ。インテリアはカロリーナ・ニシヴォッチャ建築スタジオ、インテリア・デザイン・ラヴァイオリシレンツィスタジオ、カンディーナ・ザネッリ・スタジオ、カメラネージ・ポンペーリ。



Why IN ITALY

ミラノサローネ国際家具見本市を運営する **FLA Eventi** 社は、各企業が各々について世界へ発信できる画期的なツールを与え、**イタリアの 64 の企業**が一つのプロジェクトのために初めて結集し、それぞれの「イタリア風ライフスタイル」を語りました。

イタリアで作られたものが、いかに他と違うかを、より世界に知ってもらう為の企画。「オンリー・イン・イタリア」の意味が込められたプロジェクト。**千年以上の歴史の中で培ってきた揺るがない物作りに対する魂、そのクオリティ、そこから生まれる唯一の作品群。**

イタリア製品を手にするとき、ほとんどの人はその商品の裏に隠されたストーリーを知らない。**企業の変遷、その土地の長い歴史、その伝統のもとで培われてきた文化、受け継がれてきた職人技術**がいま結集し「**唯一無二**」を創り出す、それがイタリアン・ライフスタイルであると誰もが気づくことでしょう。



< サローネサテリテ > 「ライフ・プラネット」

昨年、コンパツツ・ドーロ賞を受賞したサローネサテリテは、今年、イタリアでは成人となる年齢、18周年を迎えます。ミラノ万博を前に、同じ食をテーマにした5つのインスタレーションと共に、パビリオン22,24号館の奥(一般はカーゴ5番)より、会期中通して無料で入場していただけます。

18年間で、その名を不動のものとしたサローネサテリテ。これまでに参加した10,000人以上の若手デザイナーの中から、今や世界に名を馳せるデザイナーを多く輩出してきました: フランスからマタリ・クラセット、パトリック・ジョウイン。フィンランドからハッリ・コスキネン、イルッカ・スツパネン。日本から安積朋子、ネンド。アメリカからショーン・ユウ、コーリー・グロッサー。スウェーデンからフロント、ヨハン・リンドステン。ベルギーからザビエル・ルスト。ノルウェーからダニエル・ライバッケン。インドからサティエドラ・パカレ。アルゼンチンからフェデリコ・チュルバなど。各国からデザイン学校も270校以上参加しました。

170カ国から35万人以上を動員するSalone del Mobile.Milanoがミラノ万博のドレスリハーサルとするなら、第18回サローネサテリテは、万博のテーマである「地球に食料を、生命にエネルギーを」と同じく、「ライフ・プラネット」をテーマにしたインスタレーションの特別プロジェクトで万博プレイベントを盛り上げます。

各国から厳選された約700人の若手デザイナーによる展示に加え、今年で第6回目を迎えるサローネサテリテ・アワードは、隔年開催見本市に準じたプロトタイプ1つ以上が対象となります。今年にはエウロルーチェとWorkplace3.0/サローネウフィーチョの年。厳選な審査のもと1位から3位までの入賞者には、賞金に加え、入賞作品の普及を目的としたコンサルタント及びプレス・サポートが約束されます。

<レオナルド 1452～1519 展 4月15日～ ミラノ王宮にて>



イタリアで未だかつてない規模のレオナルド・ダ・ヴィンチ展。ミラノ市とイタリア美術出版社スキラの協力により実現、Salone del Mobile.Milano 開催に合わせて、またミラノ万博開催に先立ちオープンします。キュレーターは、「最後の晚餐」壁画修復を主導したことで知られるダ・ヴィンチ研究家のピエトロ・C・マラーニ、ルネサンス美術の権威でダ・ヴィンチ研究の第一人者として著名な美術史家、マリア・テレサ・フィオリオの2人。更には顧問にメトロポリタン美術館の主任学芸員/カルメン・ヴァンバック、フィレンツェ美術館特別監督局長官/クリスティーナ・アチディーニ、アンブロジーナ図書館館長/フランコ・ブッツィ、ロンドン・ナショナルギャラリー・キュレーター/ニコラス・ペニー、バチカン美術館館長/アントニオ・パオルッチ、ウッフイツィ素描版画館館長/マルツィア・ファイエッティ、ルーブル美術館絵画部長/ヴィンセント・ポマレードなど蒼々たるメンバーが名を連ねます。会場内では「最後の晚餐」修復に関する資料もパネルやコンピューターで紹介。また、会場外のスフォルチェスコ城やアンブロジーナ図書館でも併催されます。



<お役立ち情報>

● ソーシャルネットワーク

Salone del Mobile.Milano に関する情報は Salone del Mobile.Milano 日本語オフィシャルサイトより:
<http://www.milanosalone.com/>

また、各ソーシャルネットワークでもご覧になれます:

Facebook、Twitter、YouTube、Flickr、Linkedin、Pinterest
blog.isaloni.it

Twitter hashtags: `iSaloniofficial:

#iSaloni|#EuroCucina|#SaloneBagno|#SaloneSatellite

● プレスオフィス

南ゲート、サービスセンター内(見本市開催期間中)
初日より3日間、日本語対応有り。

● インフォメーション・スタンド 今年も設置!

昨年好評だったインフォメーション・スタンドが、今年も空港やミラノ市内の鉄道駅、地下鉄、そしてリナシェンテに配置されます。ミラノのデザイン学校(IED、ドムス・アカデミー、Naba、ミラノ工科大学)の生徒の協力を得てフィエラ会場へのアクセスなどをご案内します。

● 地下鉄切符と来場者入場券の統一

今年も会場主であるフィエラミラノとミラノ地下鉄運営会社 ATM の合意により、**地下鉄切符付き入場券**がオンライン来場者入場券の事前購入に限り販売されます。
プレスパスは**対象外**になります。

● 特急列車 ローフィエラ駅直結

イタリア国鉄、トレニタリア
フレッチャロッサ、フレッチャビアンカ、エウロシティがローフィエラ駅へ毎日、朝と午後3本ずつ乗り入れます。また、スイスローフィエラ駅間も対応。

● 航空券ディスカウント

出展者、業界関係者とジャーナリストを対象としたディスカウントです。
スカイチーム = 国際線 5-15% オフ (対象期間:2015年4月9日~24日搭乗)
アリタリアとも国内線ディスカウント交渉中。



● アクセス及び宿泊に関してのお問い合わせ

FLA Eenti 社提携旅行代理店まで:

Superviaggi srl

<http://www.superviaggi.com/en>

● 会場マップ

<http://www.milanosalone.com/kaijyou/index.html>

● スマートフォン専用「Salone del Mobile.Milano 2015」無料アプリ

3月中旬開始予定。

<http://salonemilano.it/en-us/INFO/Mobile-App>

● 2015年出展社リスト

<http://salonemilano.it/en-us/VISITORS/Salone-Internazionale-del-Mobile/Exhibitor-list>

“Exhibitor list 2015”は2月中旬ごろ公開予定です。

内容は開催直前までアップデートされますのでご了承ください。

● FLA Eventi オフィシャルサイト

www.salonemilano.it

オフィシャル日本語サイトも是非ご利用ください。

www.milanosalone.com

2015年2月10日 ミラノ

コズミットプレス: マルヴァ・グリッフィン・ウィルシャー